

会 議 要 旨

会 議 名	平成27年度第1回館山市地域公共交通会議
開 催 日	平成27年7月24日（金）午後1時30分～午後3時50分
開 催 場 所	館山市役所本館2階会議室
出 席 者	[委 員] 18名 [関東運輸局] 交通計画課長 [館山市] 金丸市長 市長公室長 企画課長 企画課副課長 政策係長 企画課職員
公開 非公開の別	原則公開
傍聴人数	4名
事務局	<p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 委嘱状交付</p> <p>4 自己紹介・事務局紹介</p> <p>5 会長選出・副会長の指名</p> <p>出席委員の推薦により、会長は田中館山市副市長が選任された。</p> <p>田中会長の指名により、副会長は須田館山日東バス株式会社代表取締役が選任された。</p> <p>6 議事</p> <p>(1)「公共交通(遠距離通勤・通学等)に関するアンケート」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館山市では、公共交通の維持確保と通勤圏・通学圏の拡大を目的として、公共交通の現状や課題の抽出のため、今年の2月に公共交通に関するアンケートを実施した。 ・調査対象は、16歳以上65歳以下の市内在住者で、2,000人 を無作為に抽出。 ・調査方法は、郵送による無記名回答で、回答率は、43.8%。 ・調査結果について、個別に報告した。 ・公共交通の必要性を述べる意見のほとんどが、自身の今というより、ご年配の方を中心とした、実際の利用者や将来自身が車を運転できなくなった時のことを考えての意見であった。 ・本アンケートの結果を踏まえて、今後更に詳細な分析をすることで、地域の公共交通の確保維持、また、通勤・通学圏の拡大のための方策を考えていきたい。 <p>(委員より質問・意見なし)</p>
事務局	<p>(2)千倉線(館山日東バス株)の10月1日以降の運行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バス千倉線の事業者より、路線廃止の申し出が提出された。 ・千倉線については、一日当りの平均乗車密度が15人以下となってしまう、国及び県の補助要件からはずれてしまった。 ・事業者としては、赤字分の関係市による補填があれば継続も可能。 ・千倉線の収支状況・利用状況・乗降調査結果について報告。
委員B	<ul style="list-style-type: none"> ・年々、千倉線の利用者が減っており、平成27年度は、補助金も受けられなくなってしまう

	<p>た。このままでは廃止せざるを得ない。6往復の運行を5往復とし、減便してなんとかやって行きたい。補助をお願いしたい。</p>
委員C	<ul style="list-style-type: none"> ・地元としては、減便してでも存続をお願いしたい。 ・千倉線沿線を高速バスが走っているが、仮に千倉線がなくなった場合、高速バスの停留所の設置をする考えはあるのか。
委員E	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスと高速バスは別事業として考えている。その中で、路線バスを何とか維持するという方向で皆さんと考えていきたい。
委員A	<ul style="list-style-type: none"> ・最近地元紙で、(高速バスの)安房地域医療センターへの乗り入れができないかという投稿があったが、そういったニーズがある場合、停留所を設けるということは法令上では可能か。
委員E	<ul style="list-style-type: none"> ・停まることは、法的には可能。しかし、車両の乗り入れが可能な場所はどうしても限定されてしまう。医療センターへの乗り入れは難しい。
委員F	<ul style="list-style-type: none"> ・高速バスが通っているので、止めてほしいという話は理解できるが、高速バスはどうしても遅れる。また満席の場合、待っている高齢者の乗車を断わらなければいけないというケースもある。地域の交通をどうするか考えた方が良い。
委員A	<ul style="list-style-type: none"> ・南房総市は、千倉線について沿線の住民の意向等はいかがか。
委員G	<ul style="list-style-type: none"> ・地元には廃止の申し出があったと伝えた。利用状況から、安房地域医療センターへの通院の手段が主なものになっている。その中で、休診日の運休や減便などの路線の効率化を図った上での存続を館山市と一緒に協議していきたい。
委員H	<ul style="list-style-type: none"> ・路線図を見ると、市内線と洲崎線など路線の重複が見られる。例えば、市内線を路線変更し、地域医療センター行きにできないか。
委員B	<ul style="list-style-type: none"> ・館山地区からイオンへ向かう方もいる。また、現在、館山航空隊前を待機場所としているが、医療センター行きに変えた場合、待機場所は確保できるか、更に市内線は、国・県の補助路線であるため運行路線を変えた場合の補助金への影響等、色々な問題が出て来るため、この場でなんとも言えない。
委員A	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の結論としては、減便と沿線の利用促進を図り、国・県の補助要件である運行量を目指して、3年後を目安に努めていくということで、継続の方向で南房総市との協議に入りたいと思いますがいかがか。 <p>(異議なし)</p>

<p>関東運輸局</p>	<p>(3)「地域公共交通網形成計画」及び「地域公共交通再編実施計画」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省関東運輸局交通政策部交通企画課による説明。 ・国土交通省としては、計画制度や予算制度を活用していただき持続可能な公共交通を実現してもらいたい。 ・出来る限り、早期に検討を始めて、使える制度は使っていただきたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通網形成計画を要件とする補助メニューについては、今後も充実していく方向性か。
<p>関東運輸局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通網形成計画や再編実施計画を策定している自治体に、重点的に支援していくことになる。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画を作るメリットはどういったものが考えられるのか教えていただきたい。
<p>関東運輸局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市の財政面での負担の減が一つ。運行形態見直しによる財政負担の減、補助金による助成がある。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通網形成計画を策定するにあたって具体的にどのくらいの費用がかかるのか。
<p>関東運輸局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体の規模もあるので一概に言えないが、数百万円くらいになるかと思う。それから何をやるのかにもよる。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在コミュニティバスを走らせていない市町村で、公共交通網形成計画を策定している自治体の例はあるか。
<p>関東運輸局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスがなかったパターンは関東管内ではない。勿論、ないから駄目だという訳ではない。
<p>(皆様からいただきましたご意見は参考にさせていただきます。)</p>	